

レモンをレモネードに変えて一研究力の“見える化”と前向きな発信—

神戸大学 経済経営研究所
助教 中田 未央

10年前、海外での就職や出産・子育てを経験した後、日本に戻り、民間企業から神戸大学へ転職して7年目になります。現在は経済経営研究所の共同研究推進室で、先生方の研究成果を「見える化」し、社会に発信する役割を担っています。

工学や医学のように、成果が形として表れやすい分野と異なり、ソーシャルサイエンスでは研究の価値をどのように社会へ伝えるかが重要になります。共同研究推進室では先生方にご指導をいただきながら、日々試行錯誤を重ねています。

さて、大人になった今でも、私にはずっと大切にしている座右の銘があります。生活や子育て、そして仕事の場面で、いつも心の支えになってくれる言葉です。

それは“When life gives you lemons, make lemonade.”というフレーズ。直訳すると「人生がレモンを与えたら、レモネードを作れ」です。最近ではTBSドラマ『対岸の家事』でも紹介されたそうなので、ご存じの方も多いかもかもしれません。

直訳すると、「もし人生がレモンを与えたら、レモネードを作れ」です。

この言葉でいう“Lemons”は酸っぱく苦いもの＝困難や苦しみを指し、“Lemonade”は甘く爽やかでおいしいもの＝前向きで良いものを意味します。つまり「苦しい出来事があっても、それを活かして前向きに変えていこう」というメッセージなのです。

誰にとっても、日々の生活や勉強、子育て、仕事には少なからず困難があります。そんな



とき「なぜ自分だけがこんな面倒に…」と悲観するよりも、「これを経験したおかげで成長できた！次はもっと頑張れる！」と捉える方が、気持ちも体もずっと楽になります。

社会人になってから学んだ概念に「肯定的意図」というものもあります。WEBで調べてみると、「すべての行動や感情、思考には、一見ネガティブに見えても必ず肯定的な理由や目的がある」という考えだそうです。これもまた、先ほどの“レモン”の言葉と同じく、ネガティブな事柄にポジティブな意味を見出す姿勢につながっています。

もちろん、いつも前向きでいることは簡単ではありません。気持ちが沈むこともあります。そんな自分も「成長へのプロセス」として肯定します（いや、しようと心がけています）。無理に元気を装うのではなく、ネガティブな状態にも意味があり、いつか新しい自分につながる——そう考えることで、心が軽くなります。

「研究成果を社会とつなぐ」この役割を担う上で、ポジティブな人生観は大きな力になります。これからも、前向きな姿勢を大切にしながら、研究所での仕事を全力で取り組んでいきたいと思います。